

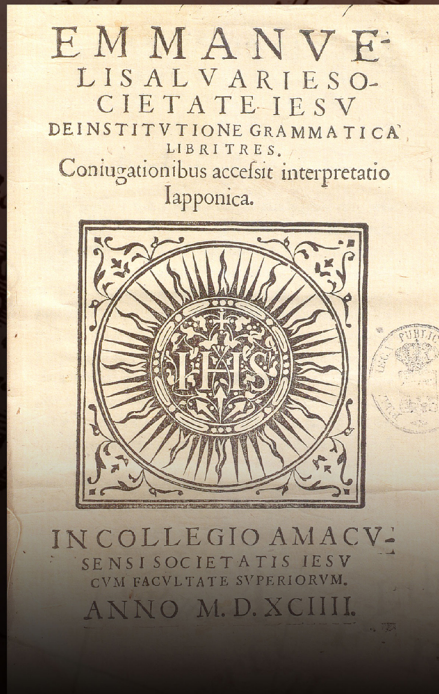
# 大航海時代のキリシタン文献を通じてみる ヨーロッパ言語と日本語の邂逅

講師

豊島 正之氏 (上智大学文学部教授) 「宣教時代の文法学に見る普遍性—ラテン語で書く日本語文法」

岸本 恵実氏 (大阪大学大学院文学研究科准教授) 「宣教と多言語辞書」

山田 昇平氏 (京都精華大学講師) 「ドミニコ会の視点で写した日本語」



# キリシタン語学の最先端

日本人にキリスト教を布教し、宗教書を翻訳することを迫られた宣教師たちは、ラテン語の文法書や辞書を拠り所としつつ、母語であるポルトガル語やスペイン語も織り交ぜた多言語環境のもとで高い水準の日本語能力を獲得していました。宣教という実践的な目標のもと外国語を研究し学習する「宣教と言語学」というテーマをおとじて、英語が有力となった現代の国際社会とは異なる言語観が見えてくることでしょう。

2018年

2月17日(土) 13:00-17:00

会場 あがたの森文化会館 講堂

入場無料

※寒さ厳しき頃、天候によっては会場の暖房が効きにくいことも予想されますので、暖かい格好にてお越しください

問い合わせ先 信州大学人文学部 白井純 0263-37-2251 jshira@shinshu-u.ac.jp